

導入事例紹介



お客様プロフィール

朝日印刷株式会社

◎1987年創業。各種印刷物や時代の変化とニーズに合った製品をデザイン・製作、お客様を第一に考えて培ってきたノウハウを提供。

◎納入機種：MC-22T Plus 2台

◎納入年月：2020年8月

埼玉県春日部市の朝日印刷株式会社は、地域密着をモットーに、春日部市・杉戸町・宮代町・さいたま市・越谷市・草加市を中心に営業をされており、名刺・チラシ・ポスター・冊子・横断幕・幟印刷・ホームページ制作を自社一括生産されております。

きりっ子「MC-22T Plus」導入の経緯

「MC-22T Plus」をご導入いただいた経緯をお伺いしました。

～代表取締役山田久雄様インタビュー～

きりっ子は、今まで旧モデルSK-21Mをはじめ、MCX-ARやMC-01も2台導入していました。大手の企業様の名刺を請け負っている為、年度が変わる時や異動の時期などは受注が立て込み、短納期に対応する為、フル稼働になります。（現在計8台が稼働）

～きりっ子で作業をされている制作責任者の須藤様インタビュー～

きりっ子SK-21Mは今も現役で使用しています。MCX-ARは名刺を内製されている企業様には良いのではと思いますが、**商業名刺**を扱う弊社には向いていませんでした。例えば、名刺やカードのサイズは様々で、定形ではない85mmや86mmサイズのご依頼もあります。その点、「MC-22T Plus」は**可変のスリット**なので、多様なサイズのご要望にも即対応できます。

また、他社機のように**スリットを交換する必要もなく**、高額な特注サイズ用のスリットを購入しなくてもよいと考え、価格もお得だと思います。

まさしく**プロ仕様**で、弊社に合った機械でしたので、「MC-22T Plus」を2台導入して、作業別に使い分けています。

きりっ子「MC-22T Plus」導入の決め手と効果

また、導入を決めた一番の理由は、「クリスパー」※1という用紙の名刺が、スムーズな給紙できれいにカットできたことです。

この用紙は静電気で用紙がくっつきやすく、どうしても重送をおこしてしまう為、以前は、人が一人機械について、手差しで作業をしていました。

ところが、きりっ子「MC-22T Plus」では、給紙の重送がなくカットできたので、即、導入を決めました。

今では、人がつきっきりになることもなく、他の作業ができる為、工場全体の作業効率も上がりました。

⇒「MC-22T Plus」の給紙特長である給紙圧調整による効果。

給紙圧3段階、セパレータ圧5段階、セパレータ2種類付属で、きめ細かな給紙調節が可能のため、上質紙、インクジェット紙、コート紙の安定給紙を実現！

※1. クリスパーは、ポリエスル系の合成紙。白色・不透明の二軸延伸フィルムベースで、内部に空洞を含有している為、コーティングにより、表面凹凸をつけたり、インキや各種樹脂との密着性を向上させる特長がある。腰があり、耐熱性・耐水性・耐薬品性・耐候性に優れ、寸法安定性・折曲適正、抜打適正がある。

「MC-22T Plus」に対するご意見

- ・センターを合わせるポインターの焦点が大きいので、ざっくりに感じる。もっとポインターの焦点を小さくして、精度を上げては？
- ・カット枚数のカウンターのリセットが1ボタンでできれば良いなと思います。

貴重なご意見をありがとうございました。



●朝日印刷様ご導入のきりっ子「MC-22T Plus」